

かるがも



第41号

発行所 千葉県こども病院

〒266-0007 千葉市緑区辺田町579-1

TEL 043-292-2111

FAX 043-292-3815

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>



新年度にあたって

病院長 伊達 裕昭



今年の冬は、日本海側や東北地方の豪雪が伝えられましたが、当院の周囲では雪らしい雪を見ることも無く、穏やかな気候のまま春を迎えました。

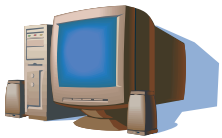
平成27年の新年度にあたり、ご挨拶申し上げます。

4月になり年度が改まっても、病院の診療機能は日々変わることなく継続しますが、そこに携わる職員の入れ替わりは避けることができません。開院以来、これまで病院の運営を支えてきた高柳正樹副院長と血液腫瘍科の沖本由理部長が、昨年度末をもって定年により退職されました。長年にわたり当院を代表する顔としてご活躍いただいた先生のほかにも、医療局、看護局、事務局それぞれの部署で、皆さまに長く慣れ親しんでいただいた職員に異動があったかも知れません。それぞれ後任の者が日々の職務に対応し、これまでの業務を支障なく継続できるように努めますのでご安心ください。

昨年度は、当院の外来を受診される患者さんの数が年間で延べ約83,000人に増加し、過去最高を更新しました。約74,000人だった平成20年度以降、年々増加を続ける状況の中で、いくつかの診療科では新患の予約がかなり先になったり、診察待ち時間が延長してしまい、来院される皆さまにご迷惑をおかけしています。今冬に行った病院機能に関する満足度の調査結果でも、外来待ち時間の長さは改善すべき筆頭として表れており、いただいた多くのご意見を病院全体で真摯に受け止め、検討しています。



一方で、外来スペースの拡張や増設が容易でなく、医師や看護師などの職員数にも限りがある中では、現在の受診者数が限界に近いことも事実です。全県的な小児の中核拠点病院としての当院の機能を多くの方々を受けていただくためにも、ご紹介いただいた居住地域の医療機関との連携をより一層深め、成人期医療への移行をさらに進めるなどの方策が必要と考えています。しかし、そのためには受診される皆さまのご理解が欠かせません。時には、皆さまのご希望に沿う診察予約をお取りできない場合があるかも知れませんが、どうかご理解とご協力をお願いいたします。



このほかに病院全体で今年度取り組む大きな事業として、平成19年度に導入した病院の情報システム（電子カルテ）の全面的な更新作業が挙げられます。カルテへの記載を始めとして、検査や注射などの指示、予約や種々の診断書交付に至るまで、外来でも病棟でも、来院される皆さまにとってはもう当たり前のようと思われるIT環境ですが、ここ数年の機能進化は著しく、現行のシステムは使用の限界を迎えています。新システムに移行することで、外来の受診方法を始めとして、診療の進め方がこれまでとは若干異なる運用に変更される可能性もあります。来年の年明け早々に予定されているシステムの入替えに際しては、診療で皆さまにご迷惑をおかけするような混乱が無いように、事前準備に努めます。

また病院内の目に見える変化としては、この新年度の始まりにタイミングを合わせ、1階の食堂および売店を模様替えいたします。食堂入り口の自動ドア化を始め、売店では公共料金の支払い収受や各種医療用品の販売拡充、宅配の受付など、ご利用いただく皆さまの利便性が増すような運営をお願いしています。年度始めは改装に伴う内装工事などで、利用される皆さまにご不便をお掛けすることがありますが、どうかご了承ください。

今年度も、当院に求められる機能をより多くの県民の皆さまに適切に提供できるよう、職員一同の知恵を絞って取り組んでまいります。当院の運営に関しまして、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成27年 4月

こども病院放射線科では、 MRI装置2台体制で検査を行います。

千葉県こども病院検査部放射線科 科部長 白山 明



白山 明

千葉県病院局は、平成26年3月31日をもって閉院した千葉県立東金病院の残された医療資産有効活用を模索していました。それをうけ、こども病院放射線科は高額医療機器であるMRI装置に関心を向けました。こども病院の現有するMRI装置はそろそろ更新の時期ではありますが、入れ替え期間中（1か月以上）MRI検査が停止してしまう状況を考えなかなか更新を決定しかねていました。そこで、東金病院のMRIを移設し2台体制にすることにより現有MRI装置を更新するときの検査停止期間をなくそうと考えました。

また、2台体制にすることにより、小児患者様の状況をふまえたフレキシブルな対応が可能となります。MRI検査は時間枠に縛られた検査です。検査時間が長い場合完全予約性であらかじめ決められた時間枠だけの検査となります。しかし、大人と違い鎮静が必要な小児患者様の場合、眠剤を投与して検査開始時間までに確実に眠る保障もなく、また、外来来院時も小児患者様ならではの様々な都合により検査時間に遅れて来院なさる場合もあります。そのような場合、様々な状況を考慮し最大限検査をおこなおうとしても、時間的な制約により検査できず次回のご予約となる患者様もいらっしゃいました。が、今後はこのような場合、2台のMRI装置を運用することで検査対応のオプションを増やす事が可能となると考えています。

このようにいろいろとメリットが考えられるMRI装置2台体制ですが、実現するために様々な問題がありました。新しいMRI検査室と決定した部屋の壁は3面が耐震壁で破壊することができませんでした。MRI装置の本体（コイル）は高さ8tにもなる高さ2.5mのドーナツ状の鉄の塊で通常は検査室の壁を破壊して搬入しなければなりません。しかし壊せる壁が1面しかなく、しかもその壁から搬入する経路を考えると放射線科受付の壁も破壊するしか方法はありません。そこで放射線科受付の壁を土日の2日間で取り外し可能な壁に置き換え、搬入時にまた壁を取り外し、壁2面を通過させぎりぎりのマージンで搬入しました。また、移設に関しての様々な問題を含み、本当に最終的な許可が下されるのか判断を許さない状況が存在しました。このような諸問題すべては管理部門、移設業者などの全面的な協力を受けクリアしてきました。

最後に、今回移設したMRI装置はGE社製の1.5Tの装置ですが、移設時にフルバージョンアップを行い最新の装置へと生まれ変わっています。新しいアプリケーションにより可能な最新の画像を小児患者様のために提供できると考えています。

こども病院放射線科はMRI装置2台体制で検査を行います。

追記 外来MRI検査時は、予約時間には遅れずにご来院下さい。

その他、新しい装置について

昨年度、放射線科ではネットワークタイプの3Dワークステーションを更新しました。これは、医師が使用する電子カルテPCに3Dワークステーション簡易アプリをインストールすることにより、院内のさまざまな場所で3D画像の閲覧、あるいは3D画像サーバー内のデータを用いた3D画像作成を可能とするものです。簡易アプリにライセンスはありませんのでインストールの数的制限はありません。また今回の更新に伴い、医師が作製した画像を、PCより3D画像サーバーに直接保存し、院内の静止画サーバーに送ることが可能となりました。このことにより電子カルテPCは、院内どこからでも3D画像を病態の説明、手術に関する説明時に簡単に呼び出すことができます。また、手術時この画像は効果的に用いられています。

ポータブル撮影に使用できるフラットパネルを購入しました。正式な名称は「X線平面検出器出力読取式デジタルラジオグラフィ」といいます（笑）。とても長い名称です。

この装置は、X線ポータブル撮影時に撮影データを瞬時に読み取り、画像データに変換し、無線LANで付属のコントロールPCに送信します。撮影後2、3秒で撮影画像を確認することができます。この機能により手術後のX線画像による確認が瞬時に完了し、手術時間の短縮に寄与しています。X線画像をすぐに確認する必要がある場合、大変有効です。

手術時に用いるX線透視装置を更新しました。この装置はフラットパネルタイプのX線検出器を搭載し検出効率が高く被ばく線量を低下させることができます。また、この装置の一番の特徴は、患部の周りを回転しながら撮影することにより断層画像を得ることが可能なことです。このことにより整形外科領域の手術時に、骨や関節の断面像を確認することができます。とても有効な機能です。

また、放射線科では患者様がお持ちになる他病院での診察画像を診察前にすみやかに静止画サーバーに取り込んでいます。このことにより診察時に医師による画像観察が容易になり、速やかな診療と、確実な画像診断をもたらします。

こども病院放射線科では、診療に役立つ装置を積極的に取り入れ、診療の立場に立った業務連携を行なっています。

千葉県こども病院県民公開講座の開催報告

千葉県こども病院では県民の皆様を対象に年に2回県民公開講座を開催しております。

平成26年度第2回県民公開講座は下記のとおりで開催いたしました。

開催日：平成27年1月31日（土）

時間：14時00分～16時00分

会場：千葉市ビジネス支援センター会議室 きぼーる13階

テーマ：「発達障害のある子どもの理解と支援」～特性と障害状態を分けて考えましょう～

講師：筑波大学 人間系長 宮本 信也先生

今回の県民公開講座には定員を超える136名の参加がありました。宮本先生は発達障害の最近の見地を分かりやすく講演し、発達障害のある子どもと接するとき大切なアドバイスをお教えくださいました。

次回の千葉県こども病院県民公開講座は9月6日（日）に開催の予定です。詳細が決まりましたら、こども病院のホームページやポスターでお知らせいたします。託児をご利用の場合、あらかじめの託児の申込が必要です。



すくすく通信

第11号

地域医療連携室長就任にあたって

千葉県こども病院 地域医療連携室長 星岡 明



星岡 明

新緑の候、皆様健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

この度、副病院長並びに地域医療連携室長の大役を拝名致しました。当院では、これまで高柳正樹副病院長の下、地域医療機関の皆様との連携に取り組んでおり、感謝申し上げます。私も実務で協力をして参りましたが、今後は、地域医療機関の皆様の声聞き、さらなる連携強化と役割発揮をして行く所存でございます。これまで同様、深いご理解とご支援を頂きながら、小児医療の専門分野における診療の強化、在宅療養支援等に取り組んで参ります。

なお、今年度は千葉県より、児童虐待防止医療ネットワーク事業の委託を受けているところでございます。皆様からのご意見、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、重ねてどうぞよろしくお願い申し上げます。

このコーナーは診療科を順にご紹介します。

神経内科

神経科（小児神経科）は、けいれん、運動・知能・感覚・行動または言葉の障害など脳神経、筋に何らかの異常がある小児の診断、治療、指導を行う科です。当科では最近若手医師が加わって、日々活気にあふれた診療を行っております。以前にも増してたいへん多くの施設から患者様をご紹介いただき、発症時に非常に重篤な状態であった抗NMDA受容体脳炎など、特殊な小児神経疾患の入院加療も数多く行いました。これからも、ご紹介いただく先生方と連携し、患者様の診療にあたっていきたいと考えております。また、当科は日本小児神経学会の小児神経専門医研修認定施設であり、小児神経専門医を目指した研修が可能です。診療と並行し、将来小児神経専門医を目指す若手医師の育成も行っております。



小俣 卓

主な対象疾患

- ①てんかん・てんかん性脳症の診断・加療：てんかんの患者様は大変多く、West症候群、Dravet症候群など、特殊なてんかん・てんかん性脳症の患者様も数多く診療しています。必要に応じて24時間脳波などで十分な検討を行い、適切な加療を心掛けております。
- ②発達のおくれ・脳性麻痺などの原因検索：言葉の遅れ、運動面の遅れ、発達障害に関しては、原因が不明の場合には当科にて検索や診断を行い、その後は療育センターなどをご紹介し早期療育を支援しています。
- ③重症筋無力症・ギランバレー症候群・筋ジストロフィーなど神経・筋疾患の診断と加療：小児重症筋無力症の当科での症例数は多く、診断・治療と並行して研究もおこなっております。筋疾患については、非侵襲的な検査から原因検索開始し、必要に応じて筋生検も行っております。診断確定後も理学療法や呼吸器の導入なども行っております。
- ④副腎白質ジストロフィーなどの、脳の代謝・変性疾患の診断・加療：稀な疾患が多く診断に特殊な検査が必要な場合もあり、まずは神経学的所見から病態や障害部位を推定し、迅速かつ適切な診断・治療を心掛けております。
- ⑤急性脳炎・脳症、急性散在性脳脊髄炎、抗NMDA受容体脳炎の診断・加療：通常の急性脳症以外にも、急性散在性脳脊髄炎、抗NMDA受容体脳炎といった稀な疾患も診断・加療を行っております。けいれん重積で発症する急性脳症については、治療法解明のための研究も行っております。また、抗NMDA受容体脳炎は、2007年に初めて報告された特異な経過をとる非常に重篤な脳症ですが、当院ではシクロフォスファミド投与の特殊な治療法も複数経験あり、後遺症なく改善しています。
- ⑥その他：これ以外にも幅広く診療を行っており、脳、神経、筋に原因があると思われる場合にはご相談ください。

歯科

当院の開設以来26年間勤務された甲原玄秋先生が退職され、私が平成26年4月から歯科医長として引き継いでおります。現在のスタッフは私と歯科衛生士の計2名で月曜日から金曜まで診療しております。当科は重度心身障害、精神発達遅滞、自閉症、脳性麻痺、非協力、中枢神経系疾患、血液疾患、心疾患、呼吸器疾患、代謝異常、染色体異常などの疾患を有し、一般歯科では対応困難な患者様を対象としています。口腔の処置に関し問題のある疾患を有する場合や原疾患の治療の内容により歯科的な対応も変えなければならない場合など、各科の専門医と連携を保ち、適切な対応がとれることが当科の特色です。



神津 由直

当科の治療内容の特色として障害児歯科治療において、安心・安全の治療のため必須であるラバーダム防湿法を行っています。ラバーダム防湿法とは手のひらサイズの薄いゴムシートに小さな穴をあけ、治療する歯だけをゴムシートの上に露出させ治療する方法です。メリットとして無菌的な処置が出来る事、唾液などにふれないため乾燥状態を保持出来る事、小器具の誤嚥防止、口唇・舌・頬粘膜への機械や薬物からの保護、術野を広げる確かな処置が出来る事、水やバキュームの刺激による嘔吐や誤嚥の防止等により、集中した治療ができ安全性にも優れた方法です。

口腔外科的疾患では、舌や上唇の小帯異常、外傷による裂創、歯牙の破折や脱臼、完全埋伏智歯、重症歯性感染症、良性腫瘍や嚢胞などの患者さまを多く紹介して頂いております。多数歯齦蝕があり外来局所麻酔下での治療が困難な場合や外科領域が必要に応じては全身麻酔下での治療・手術も行っています。

先天異常、形態異常や血液疾患等による治療後の歯列不正に関しては大学病院の矯正科と連携をとり紹介させて頂いております。

来院された患者さまの口腔機能の育成・回復・維持と口腔の健康管理を支援し、総合病院の歯科として地域の先生方のお役にたてるよう今後も努力致しますので宜しくお願い致します。



第1回、第2回千葉県小児臨床症例研究会の開催報告とご案内

登録医の先生方からいただいたご意見・ご希望等を参考に身近な疾病等をベースにした講演と当院とのスタッフとの意見交換を行っています。

第1回は平成26年10月22日に開催し、以下4題について講演が行われました。

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1) 近年の当科における初発ネフローゼ症候群について | 耳鼻咽喉科 |
| 2) 先天性尿路奇形を有する児の不明熱の初期診療について | 泌尿器科 |
| 3) 口腔ケアの重要性 | 歯科 |
| 4) 食物アレルギー Up To Date | アレルギー・膠原病科 |

第2回は平成27年2月25日に開催し、以下3題について講演が行われました。

- | | |
|------------------------|-------|
| 1) 重症筋無力症の症例 | 眼科 |
| 2) 頻脈症で紹介いただいた1カ月男児の1例 | 循環器内科 |
| 3) 小児肥満診療のポイント | 内分泌科 |

*旧「千葉県子ども病院公開カンファレンス」は新名称「千葉県小児臨床症例研究会」として、今後とも登録医及び千葉県の小児医療従事者を対象とした研修を行ってまいります。

なお、次回は平成27年6月24日(水)19時30分より当院第1会議室で開催の予定です。講演内容は5月上旬頃にホームページにてお知らせいたします。

千葉県子ども病院

〒266-0007 千葉県千葉市緑区辺田町579-1
TEL.043-292-2111 FAX.043-292-3815

詳細は病院ホームページをご覧ください。<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>